

公益財団法人にいがた文化の記憶館

平成28年度 事業報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

1. 概況

展示事業 28年度は企画展示4本と新潟市會津八一記念館特別展（貸館）1本の5本の事業を行いました。年間の入館者総数は6,114人（前年比92.7%、うち有料4,280人）でした。4本の当館企画展示と27年度の「佐渡の兄弟」展の4月の入館者を合わせた、入館者総数は3,080人（有料1,928人）でした。

参考（27年度 続き）「佐渡の兄弟—山本悌二郎・有田八郎、北一輝・吟吉、土田麦僊・杏村—」

平成28年2月27日（土）～4月17日（日） 4月は15日間

4月の入館者数 251人（うち有料157人）

I. 「越後人のねばり～鈴木牧之、吉田東伍、諸橋轍次、原久一郎～」

平成28年4月29日（金・祝）～7月3日（日） 57日間

入館者数 782人（うち有料344人）

II. **貸館** 新潟市會津八一記念館特別展「會津八一没後60年記念 究極の趣味人～會津八一と川喜田半泥子」第2会場として貸し出し

平成28年7月15日（金）～9月25日（日） 64日間

入館者数 3,034人

III. 「無頼派と焼け跡闇市派 坂口安吾と野坂昭如」

平成28年10月7日（金）～11月27日（日） 45日間

入館者数 627人（うち有料350人）

IV. 「～絵と写真でつづる～新潟ノスタルジア」

平成28年12月9日（金）～平成29年1月29日 39日間

入館者数 1,104人（うち有料863人）

V. 「青山杉作と俳優座」

平成29年2月10日（金）～3月26日（日） 38日間

入館者数 316人（うち有料214人）

これら企画展示で17人の文化人を紹介し、顕彰館や団体から貴重な資料をお借りして展示しました。

教育普及事業 定例の作品解説会「月いちレクチャー」（原則：毎月第4土曜開催）に加えて、4本の企画展示関連事業を開催しました。参加者総数は626人（前年比86.8%）で、内訳は「月いちレクチャー」が163人（前年比83.5%）、関連事業は428人（前年比81.3%）、小中学校の団体観覧では43名でした。小中学校の団体観覧では、副読本『みんなで伝えよう にいがた文化の記憶』が浸透し始めたのか、27年度から継続して来館する学校が複数見られます。館外では、新聞やフリーペーパーへの寄稿、館長や学芸員による講演活動を行いました。

連携・交流事業 28年度のネットワーク協議会は未開催でした。館内で、これまでの3回の協議会を振り返り、協議会のあり方や仕組みを見直したうえで、29年度の開催準備をしていきます。

調査及び研究・研修事業 当館で紹介している文化人についての講演会や勉強会に学芸員らが参加して、顕彰施設や団体と交流しました。また、27年度に引き続き、学芸員が外部の懇話会等の委員を務めました。

広報 27年度から一般財団法人新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NSTの3団体から助成または共催をいただき、企画展示ごとに新聞広告やテレビCM、ラジオCMで広報を展開。これらの媒体で企画展示を知って来館したお客様が見受けられました。

2. 利用状況

開館日	休館日	入館者総数	うち有料	普及事業参加者総数
258日／365日間	107日／365日間	6,114人 (※新潟市會津八一記念館特別展入場者数を含む)	4,280人	626人 (作品解説会および企画展示関連事業)

※平成27年度実績：開館日274日間 入館者総数6,588人 普及事業参加者総数721人

※28年度の当館企画展示のみの入場者数は3,080人（うち有料1,928人）。

※27年度の企画展示「佐渡の兄弟」の会期が4月17日（日）までだったため、4月1日（金）から4月17日（日）までの入場者数も含む。

3. 展示事業

① 常設展示

クール	テーマ名	会期	開催日数	備考
前期 I	①美術「北越雪譜の挿画」* ¹ ②反骨の系譜「大逆事件を弁護した歌人 平出修」 ③文学「新潟の作家と翻訳文学」* ¹ ④中国学「諸橋轍次と大漢和辞典」* ¹	4/29(金・祝) ～7/3(日)	57	*1. ①、③、④は企画展示「越後人のねばり」の関連展示。
前期 II	①中国学「諸橋轍次と大漢和辞典」* ¹ ②反骨の系譜「大逆事件を弁護した歌人 平出修」* ¹ ③美術「第6章 独往と無茶の旅」* ² ④文学「資料編 第6章 独往と無茶の旅」* ²	7/15(金) ～9/25(日)	64	*1. ①と②は前期 I と同じ。 *2. ③と④は會津八一記念館特別展の関連展示。
後期 I	①医学「長谷川泰と石黒忠憲」、「新収蔵品 平澤興 直筆書簡」 ②新潟の女性たち「海を渡った新潟の女性」 ③反骨の系譜「反骨の人 野坂昭如」* ¹ ④文学「文学者 野坂昭如」* ¹	10/7(金) ～11/27(日)	45	*1. ③と④は企画展示「無頼派と焼け跡闇市派」の関連展示。
後	①医学「長谷川泰と石黒忠憲」、「新収蔵品 平	12/9(金)	77	*1. ②は企画展示

期 Ⅱ	澤興 直筆書簡 ②新潟の女性「新潟のモダンガール」*1 ③反骨の系譜「プロレタリア芸術運動と新潟の文化人」*2 ④文学「旧制新潟高校出身の作家たち」	～29/3/26(日)		「新潟ノスタルジア」の関連展示。 *2. ③は企画展示「青山杉作と俳優座」の関連展示。
通 年	文化勲章(9名)	4/29(金・祝) ～29/3/26(日)	258	※通年で諸橋轍次「大漢和辞典」を展示。
	文化功労者(11名)			
	人間国宝(5名)			

② 企画展示

I 「越後人のねばり～鈴木牧之、吉田東伍、諸橋轍次、原久一郎～」

会 期	平成28年4月29日(金・祝)～7月3日(日) 57日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
協 力	鈴木牧之記念館、阿賀野市立吉田東伍記念博物館、諸橋轍次記念館、阿賀野市立水原中学校市民図書室
趣 旨	新潟の県民性ともいわれる「勤勉さ」や「ねばり強さ」をキーワードに、越後の先人が長い時間をかけて成し遂げ、今なお各分野で評価される偉業を一堂に紹介する。 展示や講演を通して、先人の努力を学び、越後人の持つ文化力を見直すきっかけとなることを期待する。
紹介文化人	鈴木牧之(南魚沼市)、吉田東伍(阿賀野市)、諸橋轍次(三条市)、原久一郎(阿賀野市)
連携施設等	鈴木牧之記念館、阿賀野市立吉田東伍記念博物館、諸橋轍次記念館、阿賀野市立水原中学校図書室、UX新潟テレビ21
展 示	紹介人物それぞれの顕彰施設などから借用した資料30点を展示した。また体験コーナーとして受付横に「大日本地名辞書」、「大漢和辞典」全巻を設置し、ワークシートを使って実際に手に取りやすいよう促した。
関 連 事 業	① シンポジウム「越後人のねばり～鈴木牧之、吉田東伍、諸橋轍次～」 参加者数：64人 開催日：6月5日(日) 会場：メディアシップ6階 ナレッジルーム パネリスト：笹木孝雄氏(南魚沼市文化財保護審議会会長)、渡辺史生氏(阿賀野市立吉田東伍記念博物館前館長)、佐藤祐子氏(諸橋轍次記念館学芸員) ② 月いちレクチャー「越後人のねばり」全3回 参加者総数：19人 開催日：4月30日(土)、5月28日(土)、6月25日(土) 会 場：にいがた文化の記憶館 担当：秋岡啓子
広 報	・チラシ(A4、両面カラー、割引券付、10,000部)：県内顕彰施設や図書館などに発送 ・新聞広告：新潟日報(8回掲載) ・テレビCM：NST ・ラジオCM：BSN新潟放送 ・ホームページ：当館、メディアシップ、NSTイベントページ
掲 載 記 事	4月21日(木)新潟日報 夕刊「知ってる!?この人<92> 鈴木牧之」 4月28日(木)新潟日報 夕刊「知ってる!?この人<93> 諸橋轍次」 5月7日(土)新潟日報「諸橋轍次ら4人地道な努力紹介 文化の記憶館」 5月12日(木)新潟日報 夕刊「知ってる!?この人<94> 原久一郎」 5月19日(木)新潟日報 夕刊「知ってる!?この人<95> 金子健二」 5月22日(日)新潟日報「シンポジウム『越後人のねばり～鈴木牧之、吉田東伍、諸橋轍次～』」 5月26日(木)新潟日報 夕刊「知ってる!?この人<96> 鷲尾 雨工」 6月2日(木)新潟日報 夕刊「大事業遂げた先人語る シンポジウム『越後人のねばり～鈴木牧之、吉田東伍、諸橋轍次～』」 6月3日(金)新潟日報「粘り強さテーマに 新潟の文化人考察」(シンポジウム予告記事)

	6月 7日(火)新潟日報『越後人気質』偉人から学ぶ
入館者数	782人(うち有料344人)
総括 (展示全般および地域への関わりと効果など)	<p>○評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つのテーマ(ねばり強い越後人)のもと、個別の顕彰館から資料を集めるという新しい試みがあった。 ・5～6月は中学校の巡検が多く、中学生に新潟の文化人を学んでもらうためには適したテーマだった。体験コーナーで辞書を使った生徒からは「知らない漢字を知ることができた」などの声があった。 ・アンケートでは「具体的に辞典を紹介してもらって面白かった」など体験コーナー ・関連事業では当館初の試みとして、複数の顕彰館から講師を迎え、シンポジウム形式で行った。講師からは、普段なかなか機会のない他館との交流などについて好評であった。また参加者アンケートからは、「3カ所(顕彰館)とも訪れたことがあったが、十分理解できたわけではなかった。今回の話を聞き、今一度訪れたい」、「一つのテーマで複数の先人の歩みに焦点を当てる手法は、今後も面白いと感じた」、「斬新な切り口でのシンポを今後も期待しています」といった声が寄せられた。 <p>■検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示コーナーごとに各顕彰館のパンフを置くなどしたが、実際に来館者をどれだけ各館へ誘導できたかが不明。当館の半券提示で割引きをしてもらったり、スタンプラリーなど、もっと踏み込んだ連携を企画して、数字で示すことができればよかった。 ・アンケートで作品解説の不備を指摘された。企画展ごとに学芸員が調査を行う当館の特質上、各企画展テーマに対する専門的な知識が不足していることを痛感する。今回のように紹介人物が多い場合は特に、もっと準備に時間をかけられるよう他業務との調整が必要と思う。 ・シンポジウムでは、事前に各講師から質問シートに回答してもらい、当日昼休みに打ち合わせを行ったが、司会者の力量不足のため、ディスカッション本番で一つの結論を出すことが難しかった。今後、同様の企画を行う場合は、更なる準備が必要かもしれない。
担当	秋岡 啓子

Ⅲ 「無頼派と焼け跡闇市派—坂口安吾と野坂昭如—」

会期	平成28年10月7日(金)～11月27日(日) 45日間
主催	にいがた文化の記憶館、新潟日報社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
協力企業	田村紙商事株式会社
趣旨	<p>無頼派の作家 坂口安吾と焼け跡闇市派の作家 野坂昭如。安吾は新潟市出身。野坂は旧制新潟高校在学と、ともに多感な時代を新潟で過ごしている。</p> <p>破天荒な二人の作家の創作源泉となった戦争および戦後体験であった。安吾は戦争直後の1946(昭和21)年に『墮落論』を発表。野坂は幼少時の空襲体験や戦災後に焼け跡をさまよった体験から、自ら「焼け跡闇市派」と称し『火垂るの墓』など多くの作品を発表。文学に留まらず、多様な活動をとおして、戦後の体制に異議を申し立てた。</p> <p>本展では、安吾の生誕110年を記念して、安吾と野坂昭如、二人の小説家を紹介し、敗戦直後の日本を振り返る展示とした。会期中には安吾原作「白痴」、野坂原作「エロ事師たち」の映画上映会を開催した。</p>
紹介文化人	坂口安吾(新潟市)、野坂昭如(新潟市)、坂口仁一郎(新潟市)、綱淵謙錠(新潟市)、丸谷才一(新潟市)
連携施設等	安吾 風の館、安吾の会、新潟県立生涯学習推進センター、新潟県立図書館
展示	新潟県立図書館や新潟市立中央図書館、個人等から借用した著作本や書簡など計85点を展示。坂口安吾、野坂昭如とも、各々「新潟」、「戦争」との関連性をテーマに展示した。あわせて、常設展示スペースにて、「文学者・野坂昭如」、「反骨の人・野坂昭如」も設けた。
関連事業	<p>① 映画上映会「特集上映・安吾と野坂 坂口安吾『白痴』×野坂昭如『エロ事師たち』」</p> <p>参加者総数：274人</p> <p>上映作品：「白痴」(手塚真監督、1999年)、『エロ事師たち』より「人類学入門」(今村昌平監督、1966年)</p>

	<p>上映期間：10月22日（土）～10月28日（金） 会場：新潟・市民映画館 シネ・ウインド</p> <p>② 映画鑑賞会 野坂昭如『火垂るの墓』 参加者数：30名 開催日：10月28日（火） 会場：メディアシップ2階 日報ホール</p> <p>③ 月いちレクチャー特別編「坂口安吾と野坂昭如 それぞれの新潟」 参加者総数：43人 開催日：10月29日（土）、11月26日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 講師：永田幸男氏（まちなかの文学を歩く会会長）</p>
広 報	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）14,000部（安吾生誕祭、県内顕彰施設や図書館などに発送） ・新聞広告：新潟日報（映画上映会5回掲載、展覧会5回掲載） ・テレビCM：NST ・ラジオCM：BSNラジオ ・ホームページ：当館、メディアシップ、NSTイベント
掲 載 記 事	<p>10月6日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<113>野坂昭如」</p> <p>10月13日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<114>坂口仁一郎」</p> <p>10月15日（土）新潟日報「映画『火垂るの墓』鑑賞希望者を募集 18日、新潟」</p> <p>10月16日（日）新潟日報「安吾 今なお輝き 生誕110年 柄谷氏・佐藤氏対談」ページ内の「関連イベント」欄</p> <p>10月20日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<115>坂口献吉」</p>
入 館 者 数	627人（うち有料350人）
総 括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	<p>○評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂口安吾の生誕110年の記念イヤーとして準備を進めていた「坂口安吾生誕祭実行委員会」に参加して、生誕祭関連事業の一つとして本展を開催できた。それにより、新潟・市民映画館シネ・ウインド様からご協力いただき、関連映画の特集上映会などが開催できた。 ・他館が開催した野坂昭如氏の追悼展は著作物が中心であったが、本展では、著作物に加えて、野坂氏の旧制新潟高校の同級生のご協力を得て、野坂氏の直筆書簡を展示することができた。 ・アンケートでは、「『安吾風の館』とはまた違った視点から展示していて面白い」、「坂口安吾一人の人生をもっと掘り下げて展示してほしい」などの意見があった。 <p>■検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂口安吾、野坂昭如とも、多方面にわたる活動をした作家であったため、展示テーマを絞り切れない展示構成となってしまった。 ・事前準備が遅く、映画上映会等の広報が後手になってしまい、広報が行き届かなかった。
担 当	石垣 雅美

IV 「～絵と写真でつづる～新潟ノスタルジア」

会 期	平成28年12月9日（金）～29年1月29日（日） 39日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
協 力 企 業	田村紙商事株式会社
協 力	新潟今昔写真プロジェクト
趣 旨	<p>大正末から昭和初期に流行した和洋折衷の近代市民文化のことを昭和モダンというが、この文化は新潟でも花開き、街中では洋風の建築や洋装が多く見られた。</p> <p>現在の3代目萬代橋が開通した1929（昭和4）年ごろから、戦後の新潟大火が起こった1955（昭和30）年あたりまでの新潟市の街並み、流行を写真や絵で振り返ることで、当時を知る人にとっては懐かしく、若い人たちにとっては新鮮に映るかもしれないノスタルジックな新潟の風景を楽しんでもらう。</p>
紹介文化人	関屋俊彦（新潟市）、引田周（新潟市）、笹谷幸吉（新潟市）、佐野武次（新潟市）、三芳悌吉（新潟市）、星野勇（新潟市）、玉井一利（新潟市）、吉田初三郎（京都市）など、昔の新潟市の風景・風俗を描いた画家。
連携施設等	新潟市新津美術館、新潟市歴史博物館みなとぴあ、新潟市立中央図書館、新潟市會津八一記念館、新潟市立新津図書館（視聴覚担当）
展 示	写真パネル、絵画、当時の流行に関する資料など93点を展示した。BigPadは映像コーナー

	として用い、旧新潟市視聴覚センターが所蔵していた昔の新潟市を紹介する映像を上映した。読書コーナーでは関連図書を設置した。
関連事業	月いちレクチャー特別編 「写真で比べる 新潟の『昔』と『今』」全2回 参加者総数：48人 開催日：12月24日（土）、1月28日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 講師：富山聡仁氏（新潟今昔写真プロジェクト共同代表）
広報	・チラシ（A4、両面カラー、割引券付き、10,000部）：県内顕彰施設や図書館、観光案内センター、各市町村の教育長および中学校などに発送。「新春展」会場に設置。 ・ポスター（B2、カラー、300枚）：県内顕彰施設などに発送。新潟駅連絡通路に掲示。 ・新聞広告：新潟日報（4回掲載） ・テレビCM：NST ・ラジオCM：BSN新潟放送 ・ホームページ：当館、メディアシップ施設、BSN、NSTイベント、新潟文化物語（新潟県文化振興課）
掲載記事	12月10日（土）新潟日報「新潟ノスタルジア、絵と写真で紹介」 12月25日（日）新潟日報「わが街の今昔 写真で見比べ」（月いちレク取材） 1月8日（日）毎日新聞「『新潟ノスタルジア展』昭和初期の新潟、写真や絵で紹介」 1月17日（火）新潟日報「展覧会へようこそ」（寄稿記事） 1月29日（日）新潟日報「新潟市の変化 写真で見比べ 中央区」（月いちレク取材）
入館者数	1,104人（うち有料863人）
総括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	○評価点 ・従来の人物に焦点を当てた展示ではなく、新春展の時期に合わせて堅苦しくないテーマを選んだことで、初めて当館を訪れる来館者が多く見受けられた。目標入館者数には届かなかったが、有料率が高いという結果が出た。 ・年配の来館者からは「懐かしい」といった喜びの声を多くいただいた。 ・アンケートで「吉田の鳥瞰図、歴博でも見たが遠くて暗かった。今回近くで明るくみることができた」、「新津美術館で見た関屋俊彦、佐野武次の作品もまた見ることができたのでありがたい」、「玉井一利昭和グラフィック楽しみに来ました。「モダンボーイ、モダンガール」の言葉をまた聞き、思い出す」などの詳しい感想をいただいた。 ・月いちレクチャーの外部講師として、スマホアプリを提供している団体の共同代表に来てもらい、SNSを使って従来の客層より若い層にもアピールできた。 ■検討課題 ・アンケートで「展示写真の地名が分からないので地図に示してほしい」という意見があり、今後同様の展示をする際の参考としたい。また、これまでの企画展示でもしばしば指摘されたように、「もっと見たかった」というボリュームの問題も指摘された。 ・次年度以降、新潟県内の他地域をテーマにした同様の企画を行うという案があるが、写真の集め方などに再考の余地がある（新聞に記事を載せ、一般からも募集するなど）。
担当	秋岡 啓子

V 「青山杉作と俳優座」

会期	平成29年2月10日（金）～29年3月26日（日） 38日
主催	にいがた文化の記憶館、新潟日报社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
協力企業	田村紙商事株式会社
趣旨	新発田市出身の青山杉作（1889～1956年）は千田是也らとともに劇団俳優座を設立した演出家。新発田市の紫雲寺の長男として生まれ、旧制新発田中学から早稲田大学に進学。坪内逍遙のシェークスピア講義に感銘を受けて、寺を継がずに演劇の道へ進んだ。当時の演劇界は、劇作家小山内薫が主宰する築地小劇場を中心に新劇がブーム。青山は築地小劇場の同人となり、俳優だけでなく演出も手掛けるようになる。 映画俳優として活躍したり、演出家として松竹少女歌劇団やNHK放送劇団で教えたりしながら、1944（昭和19）年に千田是也や東野英治郎、東山千栄子らとともに劇団俳優座を創設。

	<p>揺籃期の劇団で俳優、演出家、演劇研究所の所長を務めて後進を育成し、演劇界の発展に貢献。青山が歩んだ道は日本の新劇の歴史と重なる。本展では、県内でもあまり知られていない演劇人青山杉作を紹介した。</p> <p>あわせて、青山杉作が残した俳優座演劇養成所の川口浩三所長をお招きし、青山杉作と俳優座について講演していただいた。</p>
紹介文化人	青山杉作（新発田市）
連携施設等	青山杉作を偲ぶ会
展 示	<p>劇団俳優座様からご協力いただき、青山杉作が演出および出演した舞台のポスターやパンフレットを中心に 94 点を展示した。本展にあわせて年表『新劇』を中心とした近代日本の演劇史も作成し、演劇史における「新劇」および「劇団俳優座」を紹介した。</p> <p>あわせて、青山杉作を偲ぶ会から寄贈いただいた追悼集『青山杉作』を館内閲覧資料とし、来館者が目を通せるようにした。</p>
関連事業	<p>① 講演会「青山杉作と俳優座」 参加者数：60 人 開催日：3月10日（金） 会場：クロスパルにいがた 5 階 映像ホール 講 師：川口浩三氏（劇団俳優座 総務部長・演劇研究所所長）</p> <p>② 月いちレクチャー「青山杉作」全 2 回 参加者総数：16 人 開催日：2月25日（土）、3月25日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 担当：石垣雅美</p>
広 報	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）9,000 部（県内高等学校演劇部や県内で活動する小劇団、県内顕彰施設、図書館などに発送） ・新聞広告：新潟日報（7 回掲載） ・テレビ CM：NST ・ラジオ CM：BSNラジオ ・ホームページ：当館、メディアシップ、NST イベント、新潟文化物語（新潟県文化振興課）
掲載記事	<p>2月25日（土）新潟文化情報誌カルチャーにいがた「青山杉作と俳優座」</p> <p>2月25日（土）新潟日報「にいがた文化の記憶館「青山杉作と俳優座」展」</p> <p>2月28日（火）新潟日報「新発田出身 俳優座を創設 青山杉作の足跡を知って」</p> <p>3月5日（水）新潟日報窓欄「青山杉作展に若き日重ね」</p> <p>4月1日（土）財界にいがた 2017.4 月号「青山杉作と俳優座 講演会開催」</p>
入館者数	316人（うち有料214人）
総 括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	<p>○評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇団俳優座様からご協力をいただき、新潟県内でほとんど知られていない青山杉作とその業績を、展示と講演会から紹介することができた。 ・講演会アンケートでは、「始めて青山杉作の名と功績を知りました」、「個人的に、青山杉作に興味があり参加しました。新劇の歴史もお聞きして良かったです」などのご意見をいただいた。 <p>■検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の企画展示に比べて、青山杉作があまり知られていないのを分かっていたつもりであったのに、これまでの広報で進めてしまった。事前計画段階での戦略を練る必要を感じた。 ・講演会アンケートで、主催した当館のオペレーションの悪さをご指摘いただいた。イベントの準備、当日の使用機材の運用も含めて、担当として今一度再確認したい。
担 当	石垣 雅美

4. 教育普及事業

① 作品解説会「月いちレクチャー」（参加者総数：163人） ※27年度実績：195人

ケル	事業名	開催日	内容	参加人数
I	「越後人のねばり①」	4/30(土)	担当：秋岡 啓子	9人
	「越後人のねばり②」	5/28(土)	担当：秋岡 啓子	6人
	「越後人のねばり③」	6/25(土)	担当：秋岡 啓子	4人
II	特別編「會津八一と川喜田半泥子①」	7/23(土)	講師：高岡 信也 氏（會津八一記念館事務長）	7人

	特別編「會津八一と川喜田半泥子②」	8/27(土)	講師：高岡 信也 氏（會津八一記念館事務長）	9人
	特別編「會津八一と川喜田半泥子③」	9/24(土)	講師：高岡 信也 氏（會津八一記念館事務長）	21人
Ⅲ	特別編「安吾と野坂 それぞれの新潟①」	10/29(土)	講師：永田 幸男 氏（まちなかの文学を歩く会会長）	23人
	特別編「安吾と野坂 それぞれの新潟②」	11/26(土)	講師：永田 幸男 氏（まちなかの文学を歩く会会長）	20人
Ⅳ	特別編「写真で比べる 新潟の『昔』と『今』①」	12/24(土)	担当：富山 聡仁 氏（新潟今昔写真プロジェクト共同代表）	25人
	特別編「写真で比べる 新潟の『昔』と『今』②」	1/28(土)	担当：富山 聡仁 氏（新潟今昔写真プロジェクト共同代表）	23人
Ⅴ	「青山杉作と俳優座①」	2/25(土)	担当：石垣 雅美	10人
	「青山杉作と俳優座②」	3/25(土)	担当：石垣 雅美	6人

② 企画展示関連事業（参加者総数：428人） ※27年度実績：526人

ケル	事業名	開催日	内容	参加者数
I	シンポジウム 「越後人のねばり～鈴木牧之、吉田東伍、諸橋轍次～」	6/5(日)	パネリスト：笛木孝雄氏（南魚沼市文化財保護審議会副会長）、渡辺史生氏（阿賀野市立吉田東伍記念博物館前館長）、佐藤祐子氏（諸橋轍次記念館学芸員） 会場：メディアショップ 6階 ナレッジルーム	64人
Ⅲ	映画上映会「特集上映・安吾と野坂 坂口安吾『白痴』×野坂昭如『エロ事師たち』」	10/22(土)～28(金)	上映作品：「白痴」（手塚真監督、1999年）、 『エロ事師たち』より 人類学入門（今村昌平監督、1966年） 会場：新潟・市民映画館 シネ・ウインド	274人
	映画鑑賞会 野坂昭如『火垂るの墓』	10/28(火)	会場：メディアショップ 2階 日報ホール	30人
V	講演会「青山杉作と俳優座」	3/10(金)	講師：川口浩三氏（劇団俳優座 総務部長・演劇研究所所長） 会場：クロスパルにいがた 5階 映像ホール	60人

③ 学校との連携事業（参加者総数：43人）

事業名	期間	内容
総合学習 （新潟市立坂井輪中学校 2年生 5名）	5月13日(金)	担当：秋岡啓子 内容：事前質問への応答、「越後人のねばり」解説
総合学習「新潟エリアリサーチ」 （新潟市立上山中学校 2年生 4名）	5月20日(金)	担当：秋岡啓子 内容：事前質問への応答、「越後人のねばり」解説
校外学習 （新潟市立臼井中学校 1年生 26名）	5月20日(金)	担当：秋岡啓子 内容：「越後人のねばり」解説
総合学習 （新潟市立下山中学校 2年生 8名）	11月1日(火)	担当：石垣雅美 内容：『みんなで伝えよう にいがた文化の記憶』を事前学習しての館内見学、「無頼派と焼け跡闇市派」解説

④ その他事業（執筆活動、講演会など）

■ 執筆活動

No.	タイトル・掲載時期	掲載日	内容	執筆者
1	フリーペーパー『喜怒哀楽』連載寄稿	4月、6月、	企画展示の紹介に合わせ、当該	秋岡 啓子

	「にいがた文化の記憶館便り」	8月、10月、 12月、2月	展示で採り上げた新潟ゆかりの文化人について解説	
2	新潟日報夕刊連載 (27回) 「にいがた文化の記憶館 知ってる?! この人」 ※26年7月3日から28年10月27日まで 計116回が連載された。	4月7日～ 10月27日 (毎週木曜)	北吟吉、瓜生繁子、鈴木牧之、諸橋轍次、原久一郎、金子健二、鷺尾雨工、牛腸茂雄、増田義一、市島謙吉、金子彦二郎、駒形十吉、建部遯吾、宮田藍堂(三代)、山岡莊八、中村十作、関野貞、山下清、網淵謙錠、小野塚喜平次、平澤計七、小柳司氣太、芳沢謙吉、野坂昭如、坂口仁一郎、坂口献吉、小田嶽夫(掲載順)	秋岡 啓子 石垣 雅美
3	新潟日報 展覧会へようこそ 「新潟ノスタルジア～絵と写真でつづる～」	1月17日	企画展示「新潟ノスタルジア」の紹介記事	秋岡 啓子

■ 館外での講演会など (参加者総数：292人、前年比29.6%) ※27年度実績：985人

No.	事業名	開催日	内容	参加者数
1	公益社団法人新潟法人会女性部会 第5回 通常総会 講演「新潟の文化とは」	6月21日	講師：神林館長 会場：ホテルオークラ新潟	32人
2	成人大学講座「越佐人物風土記」第3回 「郵便制度の生みの親 前島密」	7月19日	講師：神林館長 会場：鳥屋野地区公民館	80人
3	平成28年度 ときわ会 紫陽会研修総会 講演会「文化創造の視点から見つめた、 これからの新潟」	8月1日	講師：神林館長 会場：新潟東映ホテル	60人
4	関屋地区公民館 関屋モーニングサロン 「新潟の女性たち」	10月28日	講師：秋岡学芸員 会場：関屋地区公民館	120人

5. 調査及び研究・研修事業

■ 研修

当館紹介文化人に関連する講演会や勉強会に学芸員らが参加。

■ その他

No	名 称	期 間	担当者
1	旧笹川家住宅保存活用計画策定検討委員会 公募委員	27/7/1～29/3/31	石垣 雅美

6. 広報

① 新聞掲載記事一覧 (企画展示関連記事をのぞく)

No	掲載紙名	掲載日	見出し	執筆者等
1	新潟日報	1/18(水)	「本社OB 故原田さん 歌集・小説など蔵書200冊寄贈 文化の記憶館に」	—

※新潟日報夕刊「知ってる!この人」(10月27日までの毎木曜、27回)を学芸員2人が執筆。(参照「3.教育普及事業 ④その他事業 ■執筆活動」)

② パスポート会員・維持会員募集広告掲載一覧

掲載紙名	新潟日報 地域欄 ※展示資料に関連する文化人の出身地の地域に掲載
掲載日	毎週水曜
掲載内容 (掲載順)	4月「佐渡の兄弟」展示資料(佐渡市) 4月～6月「越後人のねばり」展示資料(阿賀野市、三条市、南魚沼市) 7月～9月「會津八一と川喜田半泥子」展示資料(新潟市) 9月～11月「無頼派と焼け跡闇市派」展示資料(新潟市) 11月～1月「新潟ノスタルジア」展示資料(新潟市) 2月～3月「青山杉作と俳優座」展示資料(新発田市)

※新潟日報朝刊(毎週水曜)に「維持会員募集」(5月～12月に掲載)と「パスポート会員募集」(1月～4月に掲載)と企画展示資料を紹介。29年2月からは「子供は未来の文化大使」のキャッチコピーで「年間パスポート会員募集」に変更。

7. 事業別評価

事業名		評価点 (○)	改善点 (▲)・今後の課題 (■)
展 示	常設展示 (相關図)	○27年度から、企画展にあわせてテーマを設定し、企画展示終了後も、常設で一部展示を始めた。企画展示の展示数を増やせたことと、一部資料で、当該年度の企画展示を紹介できた。	▲企画展示終了後にも一部を展示し、関係文化人を紹介した。 ■昨年度からの課題だが、導線案内の工夫が必要である。 ■常設の展示替えをしても、度々見に来る来館者に伝わりにくい。案内の仕方を見直す必要がある。
	企画展示	○総合学習で来館する中学生が多い時期に中学生向けの企画展示「越後人のねばり」を開催できた。 ○27年度に続き、周年や記念イベント等にあわせて企画したことで、当館単独企画とは異なり大きなイベントのひとつに組み入れることができた。	■県内顕彰館や団体との協同企画展示ができなかった。連携できる仕組みを再検討する必要がある。 ■25年度からの課題だが、出展する顕彰施設や団体のPRが出来るよう、年間広報計画を立案し、早めに広報展開できるよう仕組みを作る必要がある。
教 育 普 及	イベント、 講演・解説	○生誕祭実行委員会に組み入れてもらったことで、新たな来館者が獲得できた。	■一部のイベント準備と広報が遅れたため、参加者の応募状況が芳しくなかったものがあつた。企画展示同様に早い段階での広報展開できるよう仕組みづくりとルーティン化が必要。
	顕彰施設 及び団体 との連携	○各施設や団体よりパンフレット設置、画像提供等での協力を得た。 ○当館でのPR展示をきっかけに、少しずつだが、顕彰施設や団体との協力体制がとれるようになってきている。 ○機関誌「にいがた文化」第2号を発刊した。	■ネットワーク協議会を開催できなかった。次年度は開催できるよう、準備を進めたい。 ■各施設や団体への連携や協力を仰ぐため、早めに依頼したり相談したりできるようスケジュールを立てる必要がある。 ■県内顕彰施設の来館者増を図るためのツール(印刷物など)の作成が必要。
	副読本	○総合学習で来館する中学生に、事前に副読本を読んでから、来館してもらうことで、副読本の内容と展示資料をリンクさせることができた。	▲副読本と関連した企画展示「越後人のねばり」を開催した。 ■副読本活用のための仕組みづくりが課

	人物選定委員会		題。 ■25年度から事業計画に挙がっているが、立上げ準備もできていない。31年度以降の発足を目指してスケジュール案を作成する。
調査・研究		○研修や顕彰会主催の講演会等に参加したことで、他団体との交流や情報交換ができた。	■昨年度に引き続き、文化人を調査し、データを蓄積するまではできなかったことが課題である。
広報		○県内の文化施設やギャラリー、図書館、観光関連施設、またメディアシップ内で行われるイベント等にポスター、チラシを設置してもらうことで幅広い層にアピールできた。 ○新潟日報朝刊（毎週水曜）に掲載していた「維持会員募集」（5月～12月）と「パスポート会員募集」（1月～4月）を、29年2月から「子供は未来の文化大使」のキャッチコピーに変更した。	■ホームページの更新が計画通りに進まなかった。定期的に更新ができるよう、職員間での仕組みづくりルーティン化が必要。 ■PR展示と連動した、効果的な広報戦略を立てる必要がある。 ■機関誌やホームページなど発信し続けることによる活動状況を普及させることが課題である。